

平和新聞

発行 日本平和委員会
〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館
電話 03(3451)6377 FAX 03(3451)6277

大阪版編集 大阪平和委員会
〒543-0012 大阪市中央区谷町7-3-4 新谷町第三ビル 210号
電話 06(6765)2840 FAX 06(6765)2837
E-mail:osk-heiwa@able.ocn.ne.jp http://www.osk-heiwa.org

翁長知事の遺志受け継ぐ 県民大会

「土砂投入を許さない
沖縄県民大会に参加して」
大阪平和委員会会長
弁護士 西 晃

8月8日、翁長知事死去とい
う悲しい出来事。台風接近で開
催自体も危ぶまれた8・11県民
大会。私は大阪平和委員会を代
表する気持ちで参加してきまし
た。

午前9時に沖縄県庁に赴き、
翁長知事に黙祷をささげました。
その県庁前駅からモノレールで
会場に向かいましたが、もうど
の列車も超満員、列車に乗れな
い人が駅にあふれていました。

会場近くでは、続々と人の波。
中部・北部からのチャーターバ
スも続々と。最終的には会場に
入りきれない人も含めて、なん
と7万人(主催者発表)もの参
加となりました。

大会開始前、会場には、今年
の沖縄慰霊の日(6月23日)で
の翁長知事の挨拶の肉声が流さ
れました。このあたりからぼつ
ぼつ降り始めた雨の中、私も含
めみなさんじつと聞き入り、あ
ちこちからすすり泣く声が…。

午前11時大会開始。壇上には
翁長知事の椅子も用意され、そ
こには知事がかぶるはずだった
青い帽子が置かれました。

時折激しく振り込む雨の中、
びしょびしょに濡れながら、各

界からの決意を一言も聞き逃す
まいという1時間でした。

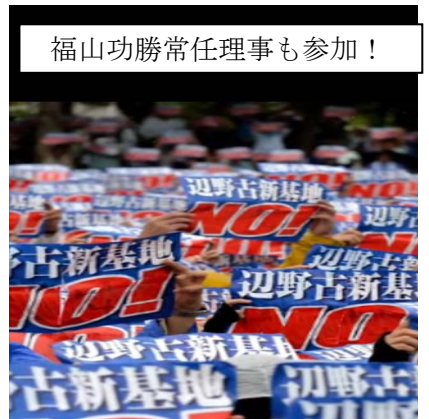
挨拶の中で謝花喜一郎副知事
は、8月4日に翁長知事と面談
した際の言葉(県民の負託に応
えるというのは辺野古承認「撤
回」である)を引用し、「県政
を預かるわれわれとして、辺野
古に新基地は造らせないとい
う翁長知事の強く熱い思いを受け
止め、引き続き毅然と判断して
いく」との姿勢を示しました。

最後に大会参加者全員で「辺
野古新基地建設NO!」「県民
はあきらめない」のメッセージ
カードを高らかに掲げました。
もちろん壇上の翁長知事と一
緒に!

悲しみを乗り越え、新たな
オール沖縄の出發となった
8・11県民大会でした。

【大会追記―8・16現在―】

前倒しとなった沖縄県知事
選は9月30日で決まりました。
後継候補者は未定。8月17日
に土砂投入という国の姿勢で
すが、国は、知事選への影響
を考慮して、知事選終了まで
の土砂投入を見合わせたとい
う報道がありますが、県に対
する陽動作戦は明らか。県は
国の動向をもう少し見据える
ということ、8月17日まで
の辺野古承認「撤回」は見合
わせました。ギリギリの闘い
は続いています。



福山功勝常任理事も参加!



朝鮮半島に非核と平和構築の流れ

歓迎する集い

大阪平和委員会など9団体が
主催する「朝鮮半島の非核化・
平和の構築を歓迎する集い」(右
下写真)が、7月22日に大阪市
中央公会堂で開催され、約300
人が参加しました。山本樹事務
局長が司会を担当しました。

講師のカン・ジョンホンさん
は「北東アジアの平和構築に向
けて―朝鮮半島の非核平和と
日本―と題して講演。

カンさんは、「北朝鮮の核・
ミサイル開発はイラクやシリア
のようにならないための対応戦
略。米軍の専制攻撃を抑止し、
体制を保全する生存戦略に他な
らない。朝鮮半島の非核化とい
うのは北朝鮮の非核化にとどま
らず、韓国のそれも含まれる。
つまり韓国が米国の『核の傘』
から抜け出ることも意味する」
「日本は『北朝鮮の脅威』とい
う虚構で平和憲法の土台を崩す

日米同盟に引きずりまわされて
きた。平和憲法の力を発揮でき
る国にするためにもこの同盟か
ら抜け出し、北朝鮮と国交をも
つべきだ」と語りました。

このつどいでは7・27キャン
ドル行動の呼びかけ人の服部良
一・元衆院議員と木戸衛一大阪
大学准教授も登壇し、キャンド
ル行動への参加を訴えました。

歓迎する交流会

原水爆禁止世界大会・広島2
日目の夜、日本平和委員会交流
会がもたれました。佐藤光雄日
本平和委員会顧問による地元
歓迎挨拶の後、イ・ジュンキュ
ン・キョレハナ平和研究セター
研究員が報告。

「朝鮮半島の非核化プロセス
の入り口となった『板門店宣言』
とシンガポール米朝首脳会談
『共同声明』をぜひしっかり学
習した上で、日本を『核の傘』
の下にしている『日米軍事同盟

今月の言葉

「戦争に仕向ける重要なファクター」
アメリカの軍産複合体は、アメリカを戦
争に仕向ける重大なファクターとして絶
えず作用してきた。ひとたび戦争が起これ
ば、アメリカの軍需産業は巨額の利益を得
ることができる。…アメリカの軍需産業
は、戦争がなければ、その生産ラインを維
持することはできないのだ。

「トランプが戦争を起こす日」悪夢は中東
から始まる(宮田律著、光文社新書)

《9月の行事予定》

- 5日(水) 大阪安保常任幹事会 10:00 大阪安保
大阪平和委員会理事会 18:00
- 6日(木) 大阪原水協6・9行動 12:00 近鉄上本町
- 9日(日) 名護市議選など沖縄県一斉地方選挙投票
- 13日(木) 沖縄県知事選告示
- 14日(金) 沖縄連帯行動 12:00 近鉄上本町
- 15日(土) ピースエッグ in おかやま(～17日)
- 21日(金) 大阪安保23行動 12:00 淀屋橋
- 24日(祝) 母親大会「ザ・思いやりII」上映
13:00 たかつガーデン8F
- 25日(火) 臨時国会開会
- 30日(日) 沖縄県知事選投票日

盟』の見直しを行うため努力す
るのが日本のみなさんの役割習
した上で、日本を『核の傘』の
下においている『日米軍事同盟』
の見直しを行うため努力するの
が日本のみなさんの役割だ」と
述べました。

核兵器禁止条約を批准する政府を早く

原水爆禁止世界大会が8月4日、6日広島で国内外から6000人の参加で開催されました。

大阪平和委員会からは、地域組織として天王寺、高槻、堺、職場組織として関西共同印刷所、歯科保険医協会などが参加。大阪全体の参加は355人でした。

6日の閉会総会では中林大阪教職員組合執行委員が府立高等学校教職員組合の青年組合員3名らとともに登壇。「職場では教職員に対する締め付けが強まっているが、負けてはいられない。『平和教育』と『ヒバクシヤ国際署名』を職場で広げたい」と決意表明しました。以下は地域から参加した3人の感想文です。

北区 近田靖幸

世界大会は初参加でした。被爆者のお話を聞いたり、原爆ドームや資料館など戦争の遺跡・遺物に直接触れるのも初めてで、「核兵器は人類と共存できない」何度も聞いたはずのこの言葉の重みが心にずしりとのしかかりました。

海外政府代表の発言や、青年交流会での海外の大学生や20代の若者の報告から、核兵器禁止条約こそが世界の主流であること、唯一の戦争被爆国である日本政府をこの条約発効の先頭に

立たせる意味の大きさを感じました。

そして、国際的な連帯と同時に、様々な市民団体が「核兵器のない世界へ」という一致点で結集・共同しなくてはならないという海外代表の方のお話に、日本の「市民と野党の共闘」も世界の流れとリンクしていることを確信しました。

戦争や核兵器のあまりの悲惨さにつらくなりましたが、それを超えるためにこれだけたくさん仲間と繋がってたたかっているんだという喜びも感じました。参加できて本当に良かったです。

生野 斎藤政寿

今回世界大会に参加させていただいて、あらためて、核・軍事基地の悲惨さを肌身で感じました。

核の悲惨さは資料館の資料で痛いほど感じました。特に、被爆後の広島の町で、髪・皮膚が真っ黒に焼けただれた人々が堪えながら互いに支え合う姿は痛々しく、胸に迫る悲しさと怒りをどうしようもありません。許せません。

岩国基地を見学しました。我々が現場に着いた途端、山口県警のパトカーが来ました。我々

を威嚇してきたものと思われま。しばらくして、基地内では米軍MP車両が我々の方に向いて走ってきます。中から手を振っています。威嚇とも、道化ともとれるような手のふり方です。まさに、占領下という思いがし、悔しい思いをしました。

西淀川 中村玉枝

4日閉会総会―今年、政府機関を始め海外代表の方の参加が多く文字通りの世界大会らしく、やはり昨年の国連での核兵器禁止条約の採択と米朝会談が世界の流れを変えていることを実感しました。総がかり行動の福山真劫氏のあいさつも、原水協が分裂した歴史を思うと感慨深く、「統一大会」に参加してみたいものです。活動報告では、茨城の厚生連労組の青年中心の軍事費増大と憲法25条を無きものにす医療費削減に抵抗する取り組みや、埼玉新婦人の若いママや子どもたちの元気よさに感動しました。

5日特別集会2「非核平和の朝鮮半島とアジア」―アメリカ、韓国、中国と日本の4国代表がそろって、次回は北朝鮮の参加に期待したいです。韓国のキャンドル革命の成功には、政権への反発や国民の不満や要求が世代を超えて渦巻いていて、

労組の役割もあり、国民各自の自主的な運動があったということです。日本との違いは何だろうと考えこみました。

夜の民医連交流会―韓国代表団が前日プレゼントした西淀川の9条Tシャツで登壇され、その場で16名がヒバクシヤ署名をしてきて盛り上がりました。

6日閉会総会―11年前からヒバクシヤの体験を聞いて絵に残すという活動をしている基町高校生、平和教育を考える大阪の教職員組合、北海道の高校生のカンパや署名行動の中で、無関心や「もう一度原爆が落ちていいのかわ」と問いかけていきたい、まずは家族友人にと言う3人のリレートークも励まされました。

政府は、被爆者が亡くなってしまうのを待っている！大会参加者が、これからどう継承していくのか、一日も早い核兵器禁止条約の発効のため頑張らねばと身の引き締まる大会でした。



各地で戦争展盛況

7月28日、台風の本州上陸を気にしながら、第7回平和のための天王寺区戦争展が市立社会福祉センターでひらかれ、61名が参加しました。

今回は「沖繩と憲法と戦争」をテーマに沖繩戦のパネルをメインに展示し、討論、交流、文化行事、沖繩戦、被爆体験の話と盛り沢山の内容となりました。午後からの催しは、上羽さんから沖繩の実態報告、海江田登美子さんから沖繩での戦争体験、原さんのアコーディオンで「沖繩を返せ」の合唱、朗読小組による「生きる」の朗読(6月23日沖繩慰霊の日、式典で中学3年生相良倫子さんが朗読「平和の詩」と続き、最後に91歳の末広千鶴子さんが広島での被爆体験を語ってくれました。



他に、堺市で7月28、29日、八尾で8月5日戦争展が開かれ好評でした。

【7月号「日本平和委員会全国大会感想文」の一人目は生野・室谷雄二さんのものでした】